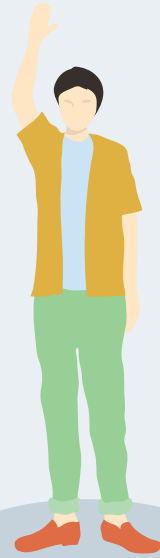


就活スタート！とりあえず何かから始めた？



「私立K大学理工学研究科、修士2年生
内定先」
電機メーカー「H」社
たいぞー



「私立W大学基礎理工学部、4年生
内定先」
テレビ局「N」社
みんみん



「国立T大学理学系研究科、修士2年生
内定先」
コーちゃん
デベロッパ―「T」社

たいぞー

僕はロボティクスの研究室に所属していて、早くから大学院に進むことを決めていたのですが、院生になったら忙しくなることがわかっていたので、どんな業界や企業があるのか見ておこうと思い、学部の3年時にナビサイトのアカウントだけ取得しました。実際に就活に本腰を入れたのは修士1年の5〜6月くらい。初期にはこの「Jobs」も読みましたし、大学生協が主催する学内セミナーにも参加しました。合説のようにわざわざ遠くまで足を運ばずにキャンパスで企業の話聞けるので、時間に限りのある院生にとって学内セミナーは便利だと思いますね。

みんみん

私が専攻しているのは、CGで紙の質感を再現する技術についてなのですが、大学院進学は考えていなくて、3年の6月頃から就活を始めました。1dayのような短いものを含めると、夏のインターンには10社参加。院生に比べればだいぶ時間もありません。回った企業は、研究テーマとは関係なく、テレビ業界と広告業界が中心でしたが、インターンを経て少しずつテレビ業界一本に絞っていききました。テレビ離れがよく語られますが、自然災害や新型コロナウイルス感染症など心配なニュースが多い中、やはりテレビから得られる情報って変わらなくて重要だと思ったので。

コーちゃん

学部で物理学を学び、さらに天文学を研究するために院試を受けて他大の修士課程に。研究室の同級生は半分が博士課程に進むのですが、優秀な連中の中でさらに秀でなければ研究者としては活躍ができないと悟り、周囲に黙ったまま就活をスタートしました(笑)。初めて就活イベントに行ったのは修士1年の4月だったと思います。業界も職種も絞れていなかったのですが、名前を知っている企業から順にESを出しました。トイレタリーメーカー、ゲームメーカー、電機メーカー、精密機器メーカー、デベロッパ―、証券会社、IT…。とにかくバラバラでした(笑)。

たいぞー

学会の発表が控えていて、夏のインターンに参加できたのは1社だけ。はじめは製造業中心に考えていたのですが、もう少し幅を持つために自分の考えを抽象化して、「モノづくり、サービスづくりを通じて人に喜ばれる仕事」ということで、交通インフラやデベロッパ―も選択肢として増やしました。それで数としては目一杯になりましたね。秋冬インターンは合計3社に参加して、早期選考に声をかけてもらいましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で採用がストップ。最終的には電機メーカー2社、自動制御機器メーカー1社から内々定をいただき、電機メーカーに決めました。

みんみん

夏にも参加したテレビ局に、秋のインターンの際にも応募し、再び通過することができました。正直、再度応募したのは「なんとな〜」でしたが、実際にインターンに参加して志望順位が一気に上昇し、本命に。私は技術職志望だったので、双方向番組で表示されるボタンの開発なども体験でき、リァリティが増しました。その後の早期選考に呼んでいただき、早々に内々定が出たので、そこで就活は終了。結局きちんと受けたのは3社だけでした。テレビ業界の選考は各社ともに早いですけど、他のテレビ局は落ちてしまったので、本当にご縁だなあと感じます。

コーちゃん

秋冬インターンに参加した企業から早期選考のお誘いがいくらかありました。ESなしで面接のみという企業も多く、実は全て最終まで行ったのに、何と全て落ちてしまいました。志望度の整理がまったくできていなかったのが敗因だと思っていますが、心のダメージは大きかったです。早期選考といえども厳しいんですね。その頃から自分の価値観をしっかりと見つけるようになり、「価格競争ではなく質の競争で選ばれるモノづくり」という軸も見えてきました。その中で一番大きなモノをつくるデベロッパ―が第一志望に。4社の中から内定承諾したのもデベロッパ―です。

研究や学会など、理系学生特有の忙しさはある。

でも就活だからと気負わず、

たった一度の新卒採用を楽しんでほしい。

後輩に伝えたいコロナ禍における就活のポイント



こーちゃん

国立T大学理学系研究科・修士2年生
【内定先】デベロッパー「T」社

3万社以上ある企業の中で、入社できるのは1社だけ。最後に自分で選べるように幅を持っておくのも◎。



みんみん

私立W大学基幹理工学部・4年生
【内定先】テレビ局「N」社

自分にも相手にも嘘をつかず、正直に向き合う。テクニックはなくても、気持ちがあれば道は拓ける。



たいぞー

私立K大学理工学研究科・修士2年生
【内定先】電機メーカー「H」社

理系学生には採用レイトがたくさんある。焦らず学生時代を謳歌することが、自己分析にも志望動機にもつながる。

こーちゃん
僕は別の視点からお伝えしますね。結局、3万社以上ある中から、入社できるのは1社だけ。それはコロナ禍だろうと平時だろうと、変わりません。だから、ある意味では最後には何かを捨てる「必要」があります。ただし捨てる時に、本心から納得できないとマズい。終盤になって捨てる「ところ」か「捨てる」ための作業が増えるのもツライ。僕はとにかく幅広く業界を見ましたが、それでももっと広げて良かったと思います。社会人になったら話を聞けない人に話が聞けるのが就活。自分に制限を設けず、早い段階で広角に動いておくのが良いと思います。

みんみん
私はオンライン面接に備えて、マイク付きのイヤホンを買いました。あと女性の場合はメイクも重要。画面越しだととても薄く見えてしまうので、友だちの間では「ちよっと濃い目」にというアドバイスを合っていました。それとカメラ位置です。私はPCモニターの角度や椅子の高さを調節して、自分の視線の高さにカメラが来るようにしていました。あれこれ試して、視線の高さが一番自然かなと、通常の面接でも、トイレの鏡で髪型やスーツのしわのチェックをしますよね？身だしなみを整えるというのは、オンラインでも同じことです。

たいぞー
就活の半ば頃から、新型コロナウイルス感染症の影響で少しずつオンライン面接が増えていったのですが、なかなか面接を通過できない友人がいました。薄暗い部屋でPCを使っていたことに気がつき、光量調節ができるデスクライトを購入したら不思議なぐらい勝率が上がったそうです。見た目だけでなく、音声も注意が必要ですね。ガーガー雑音が入ってしまうと、どれだけ良い話しても不快感が残ります。伝えたいことがあるのなら、伝わりやすい工夫をする。オンライン面接はこの先にも続く採用のやり方だと思うので、気をつけたいところですね。

こーちゃん
現代って好きなことでお金を稼ぐことができますよね。たとえば企業に就職せずYouTubeになっても良い。無限の選択肢がある中で、なぜ僕は就職するのか？就活という手段を選んだ僕らに必要なことって何なのか？実はそれも「好きなことを見つけたら」で良いのかもしれないと僕は思いました。就活は自分がどうなりたいか考える時間だし、自分が見つける時期でもあります。僕は理系職も文系職も受けて内々定も複数もらったのですが、最後は文系職で働く決心をしました。就活が自分の可能性を拡げてくれた部分はとても大きかったです。本当は実感してますね。

みんみん
私は業界がほぼ1つに絞られていたので、志望動機にはあまり困りませんでした。もちろん各局の強みやキャラクターは見極めて、それぞれに刺さるようなキーワードは探し出したけど、むしろ自己分析についてはほとんど何もしていません。実用書のようなものも読みませんでしたし、ESは思ったことをバツと書いた感じです。それでも巡り合った意中の企業から内々定がもらえた。だから、相手にも自分にも嘘をつかないということが、実は一番大事な気がしています。すべてを正直にさらけ出す。後輩の皆さんもそう思える就活にしてほしいと思います。

たいぞー
理系学生の場合、教授推薦があったり、共同研究をしている企業との接点があったり、早期選考があったり、一般の本選考があったり、採用レイトもさまざま。なので焦らず学生時代を謳歌してほしいと思います。僕は写真、英語のスピーチ、フルマラソンとサークルを3つ掛け持ちで続けてきました。塾講師のアルバイトやベンチャー企業でのカメラマンなども経験しました。留学にも行ったり。そうした自分の活動や選択の中に、自分らしさが眠っていて、自己分析の大きな糧にもなる気がします。自己分析をしてから志望動機を考えたいのが僕の実感です。